

(様式1)

# 自 己 評 価 表

学 校 名 愛媛県立八幡浜工業高等学校

学校番号 38

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点努力目標	基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成 - 思いやる心 自律の心 挑戦する心 - 『ものづくりから人づくり・夢づくり、信頼される学校づくり』 1 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進 2 一人一人を見つめた温かい生活指導の推進 3 個性豊かな人間性の育成と特別活動の充実 4 職業観・勤労観の育成と実践的キャリア教育の推進 5 地域を愛し行動できる人間の育成(ボランティア活動の推進)
------	---	--------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 校 経 営	教育活動の公開と情報発信	各種「たより」の家庭への持ち帰らせや掲示板への貼り出し、ホームページの公開により、教育活動の情報を発信する。	B	達成状況は、昨年度とほぼ同じである。今後も教育活動の情報発信に努めたい。	「たより用連絡袋」の活用により、保護者へ「たより」やその他の文書などによる学校からの情報はよく届くようになった。 来年度は、朝のショートホームルームを有効に活用し、「たより」を生徒に読ませる努力をしていきたい。
	保護者の意見反映	P T A 総会や理事会、保護者懇談会への参加率向上を図り、保護者の意見・要望を把握して、学校改善に生かす。	B	アンケートによる達成状況は昨年度とほぼ同じであるが、数値目標に掲げている「P T A 総会出席率」については伸び悩んでいる。	現在、保護者向け就職ガイダンスを同日開催しているが、進学希望者のためのガイダンスも含めて、「進路ガイダンス」として保護者の参考になるようなものへ変更していきたい。 また、「たより」等でP T A 総会開催を大きく取り上げてアピールしていきたい。
	図書館環境の整備と充実	読書啓発活動を推進し、生徒希望図書の購入等により、図書館環境の整備に努め、年間一人当たりの図書貸出し冊数3冊を目指す。	B	一人当たりの図書貸出し冊数は、昨年より増えた。一日当たりの図書館利用者数は、23年度の目標値である30人を超えることができた。 生徒から購入希望のあった本や本校生徒に人気のある作家の本は、予算内でほぼすべて購入できた。図書館から発信する情報については、生徒の評価は昨年と同じ数値であった。	引き続き生徒の希望する図書の購入に努め、図書や机、パソコン等の配置を工夫し、利用しやすい環境づくりを進めていく。生徒の朝読書や図書館から発信する情報への評価が十分ではなかったため、発信する情報内容、発信の方法等を検討し、継続的に読書啓発活動を行っていく。

学 習 指 導	教科指導の充実	生徒による授業評価をもとに教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。 相互授業研修期間中、一人年間5回以上の授業を参観し、授業力向上に努める。	B	生徒による授業評価や一人年間5回の相互授業研修を通して授業改善を図っている。 授業公開などを通して概ね良い評価を得ている。生徒に対する授業評価の活用については改善の余地がある。	生徒による授業評価の改善点や教員の相互授業研修に基づいた課題を教科会で検討し、授業改善に取り組む。 授業におけるICT活用について校内研修を行い、分らせる、魅力ある授業の実践について研修している。さらに教え方を工夫し、授業力の質を向上させたい。
	基礎学力の向上	小テストの結果を昨年度より10%アップさせる。 定期的に家庭学習時間調査を行い、家庭と連携し、学習習慣の定着を図る。	B	国語、数学、英語については少人数学習を行い、基礎学力の向上に向けてきめ細かい指導を行っている。 また、国語、数学、英語のエスタブリッシュメントテストを年間を通して行い家庭学習の定着を図っている。	家庭学習時間の確保に向けて、各教科で工夫した取組を行う。また、教科担任がホームルーム担任と協力してエスタブリッシュメントテストのための事前学習会をしたり、資格取得のための学習指導を行ったりして、家庭学習時間を確保させたい。
工 業 教 育	実践的技術者としての知識・技術	各種資格取得・検定試験合格個数(3年間)6個以上を目指す。 ジュニアマイスターの認定(ゴールド・シルバー15人以上)を目指す。	B	資格・検定合格数は2月現在3年生で5.0個と目標値には届いていないが、ジュニアマイスターでは、ゴールド12名、シルバー16名、計28名が認定された。	計算技術検定、情報技術検定など基本的な検定を取得させ、基礎基本の定着を図るとともに、さらに、難易度の高い高度な資格にも挑戦できるよう指導する。
	ものづくりの推進	ものづくりコンテスト等での入賞を目指す。 地域と連携しながら、校内外の「ものづくり」にかかわる行事に参加する。 活動の成果に対し、達成感が得られるよう発表会を行う。	A	WROでは中四国大会優勝、全国大会第4位、世界大会優勝と活躍した。また、ものづくりコンテストでは昨年に引き続き測量部門で県大会、四国大会で優勝し、全国大会に出場した。さらに、ロボット競技大会では、県大会で準優勝し全国大会へ出場するなど各競技会で活躍した。 また、課題研究発表会、県工業科生徒研究発表会、市内3高校生徒研究発表会で発表するなど各種活動に取り組んだ。	本年度も生徒の活躍が顕著で、報道でも大きく取り上げられた。次年度も引き続き各取組を充実させる。

特 別 活 動	ボランティア活動の推進	各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えると共に意識の啓発にも努め意欲的な参加を目指す。	C	目標達成には至らなかったが、昨年度に比べ人数が増加した。自主的な参加ではないが、家庭クラブ活動でのボランティア活動には、1・2年生全員が熱心に取り組んでいる。	幼稚園との交流や、児童センターでの子どもとの交流を楽しみにしている生徒が多く、なるべく興味を持ちやすいボランティア活動に焦点を当てて紹介したい。また今年度新たなボランティア活動に参加した生徒も多く、今後も継続して地域に根ざしたボランティア活動を模索していきたい。
	学校行事の充実	充実した生徒会の委員会を7回以上開催し、積極的に参加したくなるような学校行事にする。	B	1学期は委員会を5回、2学期は7回、3学期は1回実施した。記念バラ展から記念工業祭まで、創立50周年にふさわしい内容で、充実した行事を実施することができた。他の学校行事においても熱心に取り組むことができた。	来年度からは各行事内容の検討が必要になると思われる。計画的に委員会を実施して早めに取りかかれるようにし、全校生の思い出に残るような学校行事を目指したい。
	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。	A	今年度の部活動加入率は1年生は100%、2年生も100%、3年生は97%で、全体では98%である。今年度は1年生が7名部変更した。	兼部しているのは、1年生は1名、2年生は1名増の9名、3年生も1名増の4名で計14名である。生徒数が減少しているため、他の部活動との兼部も積極的に勧めるなどして、部員数の確保に努めたい。
生 徒 指 導	基本的な生活習慣の確立	保護者との連携を密にし、欠席・遅刻・早退ゼロを目指す。頭服指導を徹底し、高校生らしい身だしなみを身に付けさせる。	C	2月末の遅刻数は、延べで1年16回（前年比 - 19）、2年25回（前年比 - 24）、3年29回（前年比 - 13）で、個人では6回1人、5回1人、4回2人、3回1人であった。昨年同時期と比較して大きく減少した。頭髪・服装については、校内での大きな乱れは見られないことから、目標はある程度達成できた。	今後も、ホームルーム担任を中心とした個別指導と入室届けの徹底を行い、自覚を促していきたい。また、家庭との連絡を密にし、基本的な生活習慣が身に付くよう保護者に協力をお願いしていきたい。
	規範意識と社会性の醸成	交通安全教室、非行防止教室等を通し生徒の規範意識を育成する。校門指導、教科指導、部活動の中で挨拶を励行させる。	C	校内での挨拶は、かなり達成できている。校門指導での挨拶運動の成果が表れていると考える。校外での挨拶、交通ルール・マナーについては、相変わらず地域住民の評価が低いことから、十分な成果は表れていない。	非行防止教室や全校集会等で繰り返し指導を行い、規範意識を高めていきたい。また、校門指導・登校指導で交通安全指導の徹底を行いたい。挨拶については、これまでの校門指導を中心とした挨拶運動を継続していきたい。

人権 教育	人権啓発の推進	「人権だより」やその他の啓発資料を通して、人権尊重の意識を高める。 「人権だより」を年10回発行する。	C	「人権だより」は、教室掲示用をカラーにし、人権委員によるホームルーム活動の報告や生徒の講演会の感想をそのまま掲載し、生徒が関心を持つことができる内容を取り入れるよう努めたが、生徒の読み状況は、十分ではなかった。保護者の92%は、読んだことがあると答えており、良好である。「人権だより」年10回発行は、達成できた。	「人権だより」に生徒が関心を持ち、人権尊重の意識を高めていくことができるよう、さらに内容を検討する。生徒に「人権だより」を読ませるための工夫については、適切な方法を検討し、取り入れていく。
	いじめをなくする取組	いじめる生徒、いじめられる生徒ゼロを目指す。 いじめに関するアンケートを年2回実施する。	B	いじめに関するアンケートの結果は、2回とも昨年以上に良好であった。いじめられたことがあると答えた生徒の数は、第2回の調査では0.2%（総数で5名）であり、学校生活が十分に落ち着いていることをうかがわせるものであった。また、学年進行で数が減少していることに生徒の着実な成長を読み取ることができる。内部評価結果は昨年度と同程度の数値であった。	いじめに関するアンケートの実施後、担任が該当生徒に面接指導等を行った。また、職員会議等で情報の共有を図るとともに、様々な場面でいじめのない学校づくりに向けての生徒の意識高揚を図ってきた。今後も授業やその他のすべての教育活動を通して生徒理解に努め、生徒との人間関係を深め、明るい学校づくりに取り組んでいく。
進路 指導	就職指導の充実	望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。	B	景気悪化の影響が大きく、就職試験の1次内定率は74%と目標を下回った。2次求人がほとんどない状態ではあったが、就職希望者の生徒は全員が内定した。 職場見学、インターンシップ、講話等の行事も予定通り実施され、職業観、勤労観の育成を図る事ができた。	企業見学、インターンシップ、体験発表等を通して職業観、勤労観の醸成を更に図る。また、来年度の就職は、今年度並の厳しさが予想されるため、生徒に対して早期に意識付けを行うとともに、模擬試験、適性検査、夏期補習等の充実を図り、1次内定率の向上を目指す。
	進学指導の充実	大学・専門学校などへの合格率90%以上を目指す。	B	模擬試験、進学説明会、夏期進学補習、放課後補習などを実施し、進学に対する意識付けができた。進学を希望している生徒全員が合格した。	1、2年生の進学希望者に対し、普通教科の学力向上を目指した模擬試験、補習等を実施していく。

学校保健	健康管理と保健指導の充実	健康診断結果の的確な把握と適切な指導を行うとともに、具体的な指導を計画し基本的生活習慣の確立を図る。 「保健だより」を毎月1回発行する。	B	朝の健康観察を継続的に実施しており、日常の健康状態の把握及び個別の対応ができている。また、感染症等の流行の様子や対策について情報発信できている。 献血を初めて実施した。保健委員会の活動等により多数の協力者を得たことは健康問題への意識の高さと適切な情報発信の必要性を再確認した。「保健だより」は毎号発行できた。	「保健だより」や発信文書の内容や時期を検討し、担任・家庭との連携が行えるような発信を研究していきたい。また、疾病やケガ等への文字通り対症療法的な対応はもちろん、予防や積極的な健康づくりに向けた取組についても発信していきたい。
学校安全	安全意識の向上	避難訓練を年3回実施して、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。	B	今年、本館が完成し、生徒は3・4階からの避難訓練となったが、所要時間は短縮され、達成状況はよくなっていると判断できる。	今年度は、愛媛県原子力防災広域避難訓練に伴う八幡浜市の取組に参加・協力し、放射能汚染に対する屋内避難訓練を実施した。来年度以降も、火災による避難だけでなく、あらゆる非常事態（地震、津波、放射能汚染等）に対する避難方法、避難場所、避難経路等を周知させていきたい。
学校行政	電気使用量の削減	節約推進に学校全体で取り組み、電気使用量を前年度より5%削減する。	C	昨年に比べると、削減されている。	今後、教職員及び生徒に周知徹底し学校全体で節電に取り組みたい。

評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。